

IELTS 攻略法

学習計画編	24
リスニングテスト編	25
リーディングテスト編	31
ライティングテスト編	38
スピーキングテスト編	46
語彙・文法編	51
イギリス英語編	55

※2020年1月11日より、リスニングテストにおいて以下の点が変わりました。本書では変更前の形式を扱っていますが、内容への影響はありません。

- ・ Section という名称が Part に変わりました。
- ・ Part 1 にあった Example が削除されました。

1 まずは状況を知る

留学したいと思ったら、まず必要なのは情報収集です。ブリティッシュ・カウンシルなどの公的機関、自分の学校、留学予備校などを利用して、行きたい大学と、入学するために必要なスコア、スコア提出までにどれくらいの準備期間があるのかを知りましょう。複数回受験する余裕がある人は、1回目では理想のスコアを取れない可能性も考慮しておくといよいでしょう。

2 試験を知り、自分の実力を把握する

状況がわかったら、問題を解いてみて、試験がどのようなものかを体感します。本書を利用する場合は、3回分の問題が掲載されているので、試験を知るためにまず1回分を解いてみましょう。実際の試験のようにすべて連続して解くのが理想ですが、まとまった時間が取れなければ、何度かに分けてもよいでしょう。答え合わせが済んだら、自分の実力を確認します。自分が得意なところと苦手なところを把握します。リスニングか、リーディングか、ライティングか、スピーキングか。例えばリスニングが苦手なのであれば、音が聞き取れないのか、語彙が足りないのか、内容が難しく理解できないのか、あるいは集中力の問題なのか。できるだけ具体的に理解するようにします。

3 計画を立てて、問題を解いていく

次に、何をどれくらいの期間で行うかの目標を立てます。目標スコアまであとわずかという人は、本書の問題を解いて、間違えたところを復習するだけで十分かもしれませんが、まだまだという人は、ただ問題を解くだけでは伸びません。語彙が足りない人は、語彙を増やすよう努めましょう。4つの分野すべてをまんべんなく学習するのが理想的ですが、時間がなければ、苦手な分野を克服する、得意な分野を伸ばすなど、自分に合った方針を検討しましょう。

4 最後に、仕上げとして問題を解く

ひととおり対策が済んで、受験できる実力がついたと思ったら、最後の仕上げとして本書の3回目の問題を解いてみましょう。その際、できる限りまとまった時間を取って、本番の試験のように続けて解くようにしましょう。

次のページからは、IELTS攻略法として、学習のコツや普通の学習法などを説明しています。自信があるところは読み飛ばしても構いません。苦手な分野がある人は、ぜひ一度目を通してから問題を解くとよいでしょう。

① テストの概要

1 テストの流れ

セクション	時間	問題数・配点	話者の人数と内容	流れ
セクション1	6-8分	10問 各1点	2人：日常・社会的な内容 友人同士の会話、電話による問い合わせ、店員との会話など	①例題 ②プレビュー(20-30秒) ③英文(前半の問題) ④プレビュー(20-30秒) ⑤英文(後半の問題) ⑥解答の確認(30秒)
セクション2	6-8分	10問 各1点	1人または2人： 日常・社会的な内容 ラジオ放送、旅行ガイドの説明、録音されたメッセージなど	①プレビュー(20-30秒) ②英文(前半の問題) ③プレビュー(20-30秒) ④英文(後半の問題) ⑤解答の確認(30秒)
セクション3	6-8分	10問 各1点	2人以上：学術的・教育的な内容 学生同士のディスカッション、個別指導など	①プレビュー(20-30秒) ②英文(前半の問題) ③プレビュー(20-30秒) ④英文(後半の問題) ⑤解答の確認(30秒)
セクション4	6-8分	10問 各1点	1人：学術的・教育的な内容 講師による講義、講演など	①プレビュー(40-50秒) ②英文(10問) ③解答の確認(30秒)
転記	10分		解答を解答用紙に書き写す	

- ・ナレーションは、イギリス英語だけでなくアメリカ、オーストラリア、ニュージーランドなどさまざまな種類の英語が流れます。
- ・音声はすべて1度しか放送されません。
- ・英文が放送される前に、質問を先読みするプレビューの時間が与えられます。
- ・質問は、放送で流れる順番で出題されます。

2 解答のルール

以下のようなルールがあります。減点になるものにはよく注意しましょう。

✕ 減点対象になるもの

- つづりのミス
- 文法ミス
単数が複数かなど
- 指定された語数を守らない
ハイフンでつないだ語は1語とする
- 字が読みにくい

○ 減点対象にならないもの

- 大文字・小文字
- 句読点など
pmかp.m.か、onlineかon-lineかなど
- イギリス英語・アメリカ英語
centreかcenterかなど
- 算用数字かつづりか
200かtwo hundredかなど

3 問題形式

以下のような問題形式をいくつか組み合わせて出題されます。

1 用紙完成問題 (Form Completion)

① Complete the form below.

Write **ONE WORD ONLY** for each answer.

(次の用紙を完成させなさい。それぞれ1語で答えを書きなさい)

→用紙の空所を埋める問題です。解答に使用できる語数や数字の数が指示されます(下記2参照)。音声に出てくる語を使用して解答します。日付や時間、人名のつづりなど、細かい情報を聞き取る必要があります。

2 制限内の語数で答える問題 (Short-Answer Questions)

① Answer the questions below.

Write **NO MORE THAN TWO WORDS AND/OR A NUMBER** for each answer.

(次の質問に答えなさい。それぞれ2語以内か数字1つ、あるいはその両方で答えを書きなさい)

→音声に出てくる語(文字や数字)を使用して答える問題で、解答に使用できる語や数字の数が制限されています。1つの質問で2つか3つの解答が求められる場合もあります。

3 マッチング問題 (Matching Information)

① Choose **THREE** answers from the box and write the correct letter, **A-D**, next to questions 1-3.

(囲みの中から3つ答えを選び、質問1-3の解答欄にA-Dのうち正しい文字を書きなさい)

→囲みの中の選択肢(A, B, Cなど)が人、場所、出来事、物などのリストになっており、その中から、各質問に対する答えを選ぶ問題です。各質問に対して1つの答えを選びます(問題よりも選択肢の数が多い場合もあります)。

4 多項選択問題 (Multiple Choice)

④ *Choose the correct letter, A, B or C.*

(A, B, Cから正しい文字を選んで書きなさい)

→問題文に対して、複数ある選択肢から最も適切なものをいくつか選ぶ問題です。質問に対する答えを選ぶものと、途中で途切れている問題文の続きを選ぶものがあります。2つ以上の答えを選ぶ場合もあるので、いくつかの答えが求められているかよく確認しましょう。

5 図表完成問題 (Plan, Map, Diagram Labelling)

④ *Label the plan below.*

Write the correct letter, A-J, next to questions 21-24.

(次の図面を完成させなさい。質問21-24の解答欄にA-Jのうち正しい文字を書きなさい)

→音声に関連した図表を完成させる問題です(設備の図、建物の図面、町の地図など)。図表をよく見ながら場所や物の説明を聞き、図表と関連付けて理解するようにしましょう。

6 文完成問題 (Sentence Completion)

④ *Complete the sentences below.*

Write NO MORE THAN THREE WORDS for each answer.

(次の文を完成させなさい。それぞれ3語以内で答えを書きなさい)

→内容をまとめた文に空所があり、音声に出てくる語句を使用してその空所を埋める問題です。指示文に語数制限の指定がある(上記2)ので注意しましょう。完成した文は文法的に正しくなければならぬので、品詞などが正しいかよく確認しましょう。

7 メモ・表・フローチャート・要約完成問題 (Notes, Table, Flow-Chart, Summary Completion)

④ *Complete the summary below.*

Write NO MORE THAN TWO WORDS for each answer.

(次の要約を完成させなさい。それぞれ2語以内で答えを書きなさい)

→音声の一部または全部を要約したものの空所を埋める問題です。メモ (notes)、表 (table)、フローチャート (flow-chart)、要約 (summary) があります。要約は上記6同様、文の形で書かれており、答えはその文に文法的に合わなければならないので、注意しましょう。解答はリストから選択するか、空所に合う語を音声から特定します。

② 解答のコツ

1 問題を先読みして聞き取るべきポイントを押さえる

問題を先読みする「プレビュー」の時間では、①何が問われ、②何を書けばよいのか、を確認しましょう。漠然と問題に目を通すだけではだめです。先読みの「質と量」が問題です。

「質」の基本中の基本は、問題のキーワードに印をつけていくことです。問題用紙への書き込みを禁止している英語検定試験もありますが、IELTSでは書き込みは自由です。この時間をどれだけ有効に使うかが最終的な得点を大きく左右します。

「量」というのは、できるだけ先の方まで目を通すことです。通常セクション1の情報量は少なめですので、セクション1が始まる前に、セクション2にも可能な限り先読みを進めておくわけです。いわば「先読みの貯金」です。同様に常に1つ先のセクション分まで先読みをしておくことによって、情報量の多いセクション3・4での負担を軽減しましょう。

2 空所の前後にあるキーワードに注目

空所補充問題の場合には空所の前後、表完成問題の場合には空所の上下左右の項目に解答のヒントとなるキーワードがあります。これらは「間もなく答えが述べられますよ」という合図の役割を果たします。ただしこのキーワードは、リスニング音声中の単語を言い換えたものであることが多いので、問題用紙に書かれているのと同じ単語が聞こえてくるのを待ち構えていると解答を聞き逃してしまいます。先読みの段階で、キーワードに印をつけながら同義語が頭の中にひらめく(例: difficult → not easy)ようにしていきましょう。

3 空所に入るべき単語の種類を確認

空所に入る語の品詞は、事前に把握しておかなくてははいけません。例えばNationality(国籍)という項目にはAustraliaのような名詞ではなく、Australianのような形容詞が入ります。また、空所補充問題で最も多いのが、名詞の単数・複数間の違いです。表やメモのように項目になっている場合、単数形の冠詞は書かなくても構いませんが、複数形の-sは聞こえた通りに書かなければなりません。一方、文の一部が空所になっている場合には、完全な文として成立する形にしなければならないので、可算名詞の単数形には適切な冠詞、複数形には-sが必要です。

4 聞こえた単語に飛びつかないように注意

多項選択問題においては、基本的に、放送文でまったく言及されない情報だけの選択肢はありません。ですから、選択肢の中にある単語が聞こえてきただけでその選択肢に飛びついてはいけません。むしろ、リスニング音声と完全に同じ単語が含まれている選択肢は引っかけであることが多く、逆に、正解の選択肢は言い換えによってリスニング音声とは別の表現になっていることがよくあります。従って、言い換えを見つけることができたなら、その選択肢は正解である可能性が高いと言えます。

5 リスニング中は完璧な答えを書く必要はない

リスニングテストでは、放送終了後に10分間の解答転記時間があります。解答用紙への記入はこの時間に行うようになっているので、リスニングの最中に問題冊子に完璧な答えを書くとするのは百害あって一利なしです。つづりが思い出せないときは、ひとまず曖昧なつづりやカタカナでも構いませんから、とりあえず書いておきましょう。答えに自信がない問題があっても、そこで悩んでいると次の問題の答えを聞き逃してしまうので、単語の最初の2~3文字くらいだけを急いでメモしましょう。

6 聞き逃しても、気持ちを切り替える

IELTSのリスニングテストで何としても避けたい最悪の事態は、1問逃したことが尾を引いて「連敗」を続けることです。満点を狙っているのであれば、1問聞き逃してしまったからといって大きな影響はありません。過ぎ去った問題で一喜一憂せずに、今日の前で起こっている問題に集中して最善を尽くしましょう。

「連敗」を引き起こすもう一つのパターンは、今何番の話をしているのかわからなくなり、「迷子」になってしまうことです。この状態が最も起きやすいのは、セクション4です。最も難易度の高いセクションだからというだけでなく、問題と問題の間に、解答に直結しない話が比較的長く続くことがあるためです。この場合、自分が1問聞き逃してしまったのか、それとも単にまだ述べられていないだけなのかを判断する必要があります。

7 10分の解答転記時間を最大限に生かす

10分の解答転記時間は、1問当たり15秒ということになり、確認の時間を含めると短いものです。悩んだ問題も含めてまず40問すべての解答をいったん記入し、その後で、つづりの間違いや複数の-sの書き忘れなどのケアレスミスがないかを必ず確認しましょう。たった1問の差がバンドスコア0.5の差につながる場合があるのです。悩んだ問題を再度考えるのは、あくまで確認の後で時間があればにしましょう。音声を再び聞くことはできませんから、次のリーディングに向けて気持ちを切り替えることの方が重要です。

8 間違えるリスクの少ない表記で書く

解答の際、つづりを間違えてしまうと、せっかく聞き取れているにもかかわらず不正解になってしまいます。間違いやすいのは、曜日ではWednesday、月ではFebruaryです。完全な形で書いても構いませんが、少なくとも自信のないものに関しては3文字の略語で書きましょう。曜日・月の略語は採点基準として認められていますし、わずかですが時間の節約にもなります。日付は-st, -nd, -thを付けず、数字だけで構いません。1th(正しくは1st)、2th(正しくは2nd)のような間違いをしてしまう人がいますが、数字だけを書けば避けられるミスです。日付以外の数字に関しても、桁数の多いmillion(出題されたことはありますがまれです)以外は算用数字を書きましょう。ミスが避けられますし、より速く書けるはずですよ。

③ 普段の学習法

1 精聴

まず受験者が肝に銘じておかなければならないのは、IELTSのリスニングテストは正確な聴解を試すものだ、ということです。「細かいところはわからないけれど、大枠はなんとなくわかった」では正解できません。それに加えて、正しく書き取れないと正解にならない問題があります。IELTS対策としてのリスニング学習の基本は、正確な聞き取り・書き取り能力を養うもの(精聴)でなければなりません。

そのための最善の方法は、ディクテーション(書き取り)です。1文またはひとかたまりの語句の単位でリピートできる機器かアプリを使って、①1回聞いて書く→②もう1回聞いて抜けている部分を書く→③どうしてもわからなければスクリプトを見て確認→④自分でもできるだけそっくりに発音、というプロセスで練習しましょう。ディクテーションには時間がかかるでしょうから、1日30分や1時間、と時間を決めて、日々の基礎トレーニングとして行うことをお勧めします。IELTSはテスト自体にディクテーションの問題があるわけですから、その練習を怠ってはテスト対策になりません。

2 多聴

精聴がリスニングの「質」を高めるトレーニングであるのに対して、多聴は、「量」を増やすことによって耳や脳を英語モードに慣れさせるトレーニングです。素材はインターネット上にあふれていますが、IELTS対策としては以下のような条件を満たすものが望ましいと言えます。

できる限りイギリス英語またはオーストラリア英語のもの

IELTSのリスニングテストに登場するナレーターのはほとんどは、イギリス英語またはオーストラリア英語を話します。北米の英語の場合もありますが、頻度は圧倒的に低いと言えます。今までの英語学習がアメリカ英語中心だった人は、「食わず嫌い」をやめて、IELTS対策のためにイギリス英語・オーストラリア英語という別の流派に挑戦してみましょ。文字通り英語の地平線が広がり、IELTS受験が終わった後もずっと役に立ち続けること間違いなしです。

現在の英語力でおおむね理解できるもの

わからないものを我慢して聞き続けても、楽しくないだけでなく力もつきません。精聴が現在の力よりも上のものを苦勞して聞き取るトレーニングなのに対して、多聴は、(聴解の点で)おおよそ現在の力と同等かそれ以下のものを楽しみながら聞いて英語に慣れるためのトレーニングです。その意味では、やはりネイティブスピーカー向けのものよりは学習者用の素材の方がお勧めです。英語教材はインターネット上にあふれていますから、自分に合ったものを見つけられるといいのですが、迷ったらBBC Learning Englishというサイトの6 Minute Englishがいいでしょう。IELTS受験者にとって適度なレベルで、トピックも興味深くバラエティーに富んでいます。もちろんスクリプトがあるだけでなく、語彙のまとめもあります。

① テストの概要

1 テストの流れ

パッセージ	時間	問題数・配点	内容
パッセージ1	20分 (目安)	13問 各1点	
パッセージ2	20分 (目安)	13問 各1点	いずれも本、雑誌、新聞から引用されたパッセージ。一般の読者を想定しており、専門知識を問うものではない。
パッセージ3	20分 (目安)	14問 各1点	

2 解答のルール

以下のようなルールがあります。減点になるものにはよく注意しましょう。

✕ 減点対象になるもの

- つづりのミス
- 文法ミス
単数が複数かなど
- 指定された語数を守らない
ハイフンでつないだ語は1語とする
- 字が読みにくい

○ 減点対象にならないもの

- 大文字・小文字
- 句読点など
pmかp.m.か、onlineかon-lineかなど
- イギリス英語・アメリカ英語
centreかcenterかなど
- 算用数字かつづりか
200かtwo hundredかなど

3 問題形式

以下のような問題形式をいくつか組み合わせて出題されます。

1 制限内の語数で答える問題 (Short-Answer Questions)

④ *Answer the questions below.*

Choose **ONE WORD ONLY** from the passage for each answer.

(次の質問に答えなさい。それぞれパッセージから1語を選んで書きなさい)

→パッセージに出てくる語(文字や数字)を使用して答える問題で、解答に使用できる語や数字の数が制限されています。

2 情報を特定する問題 (Identifying Information)

④ *Do the following statements agree with the information given in Reading Passage 1?*

In boxes 31-33 on your answer sheet, write

TRUE if the statement agrees with the information

FALSE if the statement contradicts the information

NOT GIVEN if there is no information on this

(次の記述はリーディング・パッセージ1で与えられている情報と合致するか。解答用紙の解答欄31-33に、記述が情報と合致するならTRUE、記述が情報と矛盾するならFALSE、これに関する情報がないならNOT GIVEN、と書きなさい)

→問題文がパッセージの内容に合致するか否かを答える問題です。TRUEかFALSE、あるいはパッセージからは判断できない場合はNOT GIVEN、という3つのいずれかを書きます。TRUE, FALSE, NOT GIVENについても、つづりが誤っていると不正解と見なされるので注意しましょう。

3 文完成問題 (Sentence Completion)

④ *Complete the sentences below.*

Choose **NO MORE THAN TWO WORDS** from the passage for each answer.

(下の文を完成させなさい。それぞれパッセージから2語以内を選んで書きなさい)

→パッセージに関する文の空所を、パッセージに出てくる語句を使用して埋める問題です。完成した文は文法的に正しくなければならないので、品詞などに注意しましょう。

4 メモ・表・フローチャート完成問題 (Notes, Table, Flow-Chart Completion)

④ *Complete the table below.*

Choose **NO MORE THAN TWO WORDS** from the passage for each answer.

(次の表を完成させなさい。それぞれパッセージから2語以内を選んで書きなさい)

→メモ、表、フローチャートの空所を、パッセージから抜き出した語句を使って埋める問題です。解答に使用できる語や数字の数が指示されますが、選択肢のリストから答えを選ぶ場合もあります。

5 図表完成問題 (Diagram Label Completion)

④ *Label the diagram below.*

Choose **NO MORE THAN TWO WORDS** from the passage for each answer.

(下の図表を完成させなさい。それぞれパッセージから2語以内を選んで書きなさい)

→パッセージに関連した図表を、パッセージから抜き出した語句で完成させる問題です。解答に使用できる語や数字の数が指示されます。

6 特徴マッチング問題 (Matching Features)

例) *Classify the following statements as referring to*

A a census

B a sample survey

C administrative data

(以下の記述が次のどれを指しているか分類しなさい。A 国勢調査、B 標本調査、C 行政データ)

→パッセージの内容について書かれた文に合致する選択肢を選ぶ問題です。使わない選択肢や複数回使う選択肢もあるので、指示文を注意深く読みましょう。

7 情報マッチング問題 (Matching Information)

例) *Reading Passage 1 has seven paragraphs, A-G.*

Which paragraph contains the following information?

Write the correct letter, A-G, in boxes 1-5 on your answer sheet.

(リーディング・パッセージ1にはAからGまで7つの段落がある。どの段落が以下の情報を含んでいるか。

A-Gから正しい文字を選んで解答用紙の解答欄1-5に書きなさい)

→パッセージにおいて、ある機能(定義、理由、比較、説明、例など)を果たしているのがどの段落であるかなどを答える問題です。段落などを全部使わないことや、1つに対して2つ以上の情報があることもあります。

8 多項選択問題 (Multiple Choice)

例) *Choose TWO letters, A-E.*

(A-Eから2つの文字を選んで書きなさい)

→問題文に対して、複数ある選択肢から最も適切なものをいくつか選ぶ問題です。

9 文末マッチング問題 (Matching Sentence Endings)

例) *Choose the correct letter, A, B, C or D.*

Write the correct letter in boxes 14-17 on your answer sheet.

(A, B, C, Dから正しい文字を選んで書きなさい。正しい文字を解答用紙の解答欄14-17に書きなさい)

→パッセージの主旨について書かれた文の前半が与えられ、文を完成させるために選択肢から最適なものを選ぶ問題です。質問よりも多くの選択肢が与えられます。

10 見出しマッチング問題 (Matching Headings)

例) *Reading Passage 3 has five paragraphs, A-E.*

Choose the correct heading for paragraphs A-E from the list of headings below.

(リーディング・パッセージ3にはA-Eの5つの段落がある。段落A-Eに対する正しい見出しを下の見出しリストから選んで書きなさい)

→各段落などに対して、主旨やテーマを表す見出しをリスト(i, ii, iiiなど)から選ぶ問題です。必要数以上の見出しが選択肢にあるので、すべての見出しを使用することはありません。それぞれの見出しは1度だけ使用できます。

11 筆者の見解/主張を特定する問題 (Identifying Writer's Views/Claims)

④例 Do the following statements agree with the views of the writer in Reading Passage 3?

In boxes 32-37 on your answer sheet, write

YES if the statement agrees with the views of the writer

NO if the statement contradicts the views of the writer

NOT GIVEN if it is impossible to say what the writer thinks about this

(下の記述はリーディング・パッセージ3での筆者の見解と合致するか。解答用紙の解答欄32-37に、記述が筆者の見解と合致するならYES、記述が筆者の見解と矛盾するならNO、この点に関して筆者がどう考えているか判断できなければNOT GIVEN、と書きなさい)

→問題文が、パッセージで述べられている筆者の見解や主張と合致するか否かを答える問題です。YES, NO, NOT GIVENのいずれかで答えを記入します。

12 要約完成問題 (Summary Completion)

④例 Complete the summary below.

Choose **NO MORE THAN THREE WORDS** from the passage for each answer.

(次の要約を完成させなさい。それぞれ本文から3語以内を選びなさい)

→パッセージについて書かれた要約文の空所を埋める問題で、解答はパッセージの語句を使用する(語数制限を確認します)が、リストから選びます。

② 解答のコツ

1 読み始める前にキーワードに印をつける

問われていることがわかって答えを探しながら読むのと、何が問われているのかわからずに読むのでは、天と地ほどの差があります。しかもIELTSのパスセージは短くても700語程度、長いものは1,000語を超えます。パスセージを全文読んだ後で問題を見たのでは、細かい内容は忘れていってしまうから、正しく答えることは困難です。パスセージを読み始める前に必ず問題に目を通して、①問題のタイプ、②解答方法(何を書くのか、同じ記号を複数回選ぶことがあり得るかなど)、③各問題のキーワード、を2分を目安に確認し、キーワードには印をつけましょう。

2 問題を分類する

IELTSのリーディングの問題は、ほとんどが①段落に関する問題、②特定の箇所に関する問題の2種類に分類されます。(パスセージ全体の主題・タイトル・結論に関する問題もありますが、40問中の1問から2問です。)後者の特定箇所問題は、問題のキーワードを探して、本文でそれに対応する箇所を読むことで解答できますから、限られた時間でも何とかできる問題です。しかもこれらは、パスセージで述べられている順番と出題順が基本的に同一ですから、情報検索すべき範囲をかなり限定することが可能です。時間が少なくなっても、無解答のまま終わることのないようにしましょう。

3 特定箇所問題はキーワードの順、段落問題は解きやすいものから

特定箇所問題では、キーワードに対応する箇所を探しながらパスセージを読み始めます。問題は必ずしも問題順に解答していくわけではなく、該当する箇所が見つかった順番に解答していきましょう。段落に関係する問題は、序盤の段落が難しければ無理に答えを決めないようにしましょう。最初の方で間違った選択肢を使ってしまうと、他の問題にも重大な悪影響が出てしまうので、段落に関係する問題は、答えやすいものから答え、徐々に選択肢を狭めていくのが基本です。

4 目標バンドスコアと現在の実力に合った時間配分を

問題作成者は3つのパスセージを「やや易しい→標準→やや難しい」という構成にすることによって、幅広いレベルの受験者の英語力を正確に測定しようとしています。やや難しい問題に解答するのに時間がかかるのは当然ですから、3パスセージ目に十分な時間を残しておくのが理想です。特にリーディングでバンドスコア7.0以上を目標としている方は、最終的には「15分+20分+25分」に近い時間配分にしていきましょう。一方、リーディングのバンドスコア6.0を目標としている方や読むのに時間がかかる方は、パスセージ1と2に時間をかけて正答率を上げ、パスセージ3に関しては特定の箇所に関係する問題だけに集中し、短時間で解きやすい問題だけを正解することを狙うという方法もあります。

5 固有名詞や数詞などのヒントを活用

問題のキーワードを見つける際の最大のヒントは、固有名詞や数詞のように言い換え不可能なものです。(例外として数詞で唯一注意を要するのは、1950やthe 1950sのような年または年代のthe mid-twentieth centuryのような世紀への言い換えです。)次に重要なキーワード候補は、例えばTV/televisionのように、固有名詞ではないけれども言い換えが難しいものです。(ちなみにTV/televisionの場合は、言い換えの可能性が最も高い表現はmass mediaです。)

6 キーワードの言い換えに注意

キーワードを正しく選定できても、本文でその単語そのものを探してしまうと、見つからずに時間を浪費したり、出題者の用意したわなに引っかかったりしてしまいます。固有名詞や数詞以外は、ほとんど常に言い換えられていると思っていた方がいいでしょう。問題作成者は、この言い換えの程度によって問題の難易度を調整するのです。1語の言い換え、数語単位の表現の言い換え、パッセージ中の複数のセンテンスから成る部分からまったく別の表現への言い換えまで、いくつかのパターンがあります。キーワードに印をつけていく際には、同時にその同義語を考えるのが理想です。

7 トピックセンテンスを意識しながら読む

英語の段落構成の大原則は「1段落1トピック」で、トピックは通常、段落の最初の文で示すのが決まり事です。従って、段落に関する問題でまず注目すべきなのは、段落の冒頭です。ただし、2文目が逆接表現(Butなど)を含む文の場合は、その文がトピックセンテンス、もしくは第1文と第2文のセットでトピックを提示している可能性が高いので、要注意です。

しかし、段落に関係する問題のすべてを、最初の文または第2文だけで正解できるわけではありません。次に注目すべきなのは、段落の最後の文です。ここに「1段落1トピック」のまとめとなる文が配置されていることがあるからです。これでも答えを出しにくい場合には、第3の出題パターン「段落中に散りばめられている情報をまとめる」を考えることになります。例えば、さまざまな数字の引用によってある事柄を説明していて、正解の選択肢がThe figures ... となっているような場合がこれに当てはまります。

8 すべての単語を理解する必要はない

バンドスコア9.0を取れる人でも、パッセージ中のすべての単語を知っているわけではありません。学問分野やトピック特有の専門用語が出てくることもありますが、これらは「Xが原因でYが生じた」のように記号として理解していけばよいのです。例えば日本語でも、「粥腫ができて血管の中が狭くなり」という文で、「粥腫(じゅくしゅ)」が読めなくても大体の意味はわかるのと同じです。ただしこれは、「単語は重要ではない」という意味ではありません。一般的な語彙に関しては、ほとんど常に言い換えられたものが正解になりますので、日常の学習においては常に同義語を意識することが必要です。

③ 普段の学習法

1 単語学習

リーディングで単語学習が重要なのは当然ですが、今まで「英単語＝日本語の意味」という形で単語を覚えてきた方は、今後IELTS対策としては「英単語＝同義語」という学習方法に切り替える必要があります。IELTSでは、日本語訳がわかって英語での言い換えがわからなければ正解できないからです。普段、電子辞書を使用する際には、英和辞書を引いた後でジャンプ機能を使って英英辞書での定義を読んでもらうとよいでしょう。また、単語集では『実践IELTS英単語3500』（旺文社）のように、日本語の意味だけでなく同義語が載っているものを活用し、セットで覚えていきましょう。

2 精読

本書などの問題集のパスセージを使い、意味が取れない部分がないようにしていきましょう。意味を取りづらい部分があれば、それこそが読解力をつけるための最高の教材です。決してわからないままにせず、知らない単語を調べて覚え、和訳や解説を読み、それでもわからなければ英語の先生などに質問してみましょう。地道な作業ですが、このようにして「×(わからない)を○(わかる)にしていく」ことが読解力をつけるための王道です。

3 多読

英語の長文を読むこと自体に慣れていない方は、英文読解に対する抵抗感を減らす必要があります。上記の精読は絶対に必要ですが、逆にそれだけでは修行のようで楽しくないのも事実でしょう。そこで精読を補完する役割を果たすのが多読です。ペンギン・リーダーズなどの学習者用にレベル分けされたリーディング教材の中から、自分の英語レベルと興味に合ったものを選び、内容を楽しみながら読むことによって、長文読解に慣れ親しみ、「英語脳」を作っていく学習方法です。ただし、IELTS対策には多読だけでは不十分ですから、他の3つの学習方法と並行して行ってください。

4 実践形式演習

試験対策ですから、最終的には実践形式演習が欠かせません。学習初期の段階では、1パスセージ20分(パスセージ3は25分)を目標に、1パスセージごとに解いて学習するとよいでしょう。受験が迫ってきたら、3パスセージ40問を60分で解答する練習をしましょう。いずれの場合も、テキストに直接書き込むのではなく、できればコピーを取るか2冊買うかして、必ず後でもう一度解いてみましょう。2度とも間違えてしまった問題があれば、それが自分の弱点だとはっきりします。間違えた原因がどこにあるのか(語彙・キーワード選定の間違い・構文理解・時間配分など)を究明して対処することで、得点力がついていきます。

① テストの概要

1 テストの流れ

タスク	時間	解答の語数	内容
タスク1	20分 (目安)	150語以上	<p>グラフや図表などの視覚的な情報が与えられ、それを文字で説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や感想を述べるのではなく、グラフや図表を見ていない人にそのイメージを伝えることが重要です。 ・与えられた情報のすべてを説明するのではなく、重要な情報を選択し、体系立てて説明することが求められます。
タスク2	40分 (目安)	250語以上	<p>与えられたトピックについて、自分の意見や考えを述べることが求められます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トピックを正しく理解し、英文エッセイの構成を使いながら、論理的に意見をまとめます。 ・あるトピックのメリットとデメリットを論じる、ある主張に対して賛成か反対かを論じる、あるテーマの原因と解決策を論じるなどが、タスク2で頻繁に扱われる問題のスタイルです。

・タスク1とタスク2はそれぞれ、次のページの4つの基準に基づいて採点されます。これらの基準はいずれも、1から9まで0.5点刻みで採点され、その平均が最終スコアとなります。それぞれの評価基準の比重は4分の1ずつです。

例えば、タスク1で〈タスクの達成〉が6.0、〈論理的一貫性とまとまり〉が7.0、〈語彙の豊富さと適切さ〉が7.0、〈文法の幅広さと正確さ〉が6.0の場合、タスク1の最終バンドスコアは $(6.0 + 7.0 + 7.0 + 6.0) \div 4 = 6.5$ となります。

※これらの計算方法は旺文社独自の調査に基づいたものです。

2 評価基準

1 Task Achievement (タスクの達成) (タスク1)

Task Response (タスクへの応答) (タスク2)

タスクの要求をどの程度カバーできているか、タスクの内容にどの程度取り組んでいるかが問われます。タスク1であればグラフや図表の情報を正確に読み取り、的確にまとめ、説明できているか、タスク2であればトピックに関する立場を明確に示し、論理的で明確な議論ができているかがそれに当たります。

2 Coherence and Cohesion (論理的一貫性とまとまり)

文章の論理の一貫性とまとまりが問われます。エッセイ全体、そして各段落が論理的に一貫した構成で書かれているか、文と文をつなぐ表現がスムーズで読みやすくまとまっているかが問われます。

3 Lexical Resource (語彙の豊富さと適切さ)

同じ語彙の反復ではなく、豊富な語彙を使うことができているか、それが文脈上適切であるかが問われます。コロケーションを理解していることも重要です。スペルミスがないか見直すことも必要です。

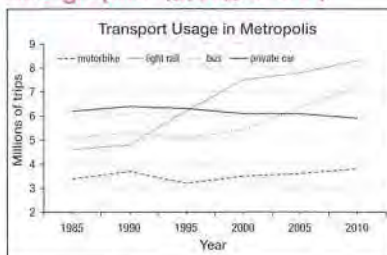
4 Grammatical Range and Accuracy (文法の幅広さと正確さ)

幅広い文法が正確に使われているかが問われます。無理に複雑な文法を使うことが求められているのではなく、語彙と同じく、文脈上適切な形でさまざまな文法が使われていることが重要です。

3 タスク1の問題形式

出題されるグラフや図表には、以下のようにさまざまな種類があります。1種類だけの場合もあれば、2種類以上の組み合わせ(「円グラフ+表」など)の場合もあります。

1 line graphs (折れ線グラフ)



→時間的な変化や推移を表すときに用いられます。どんな傾向(上昇か下降かなど)を示しているかを理解し、特徴的な変化や増減を説明することが求められます。適切な時制を使うよう注意しましょう。

1 メリットとデメリットを比較する

Over the past twenty years there has been a big rise in international tourism.

What are some of the advantages and disadvantages of this growth?

(過去20年間で国際観光は大きく発展しました。この成長のメリットとデメリットにはどんなものがありますか。)

→このパターンでは、エッセイにはメリットとデメリットの両方を含める必要があります。To what extent is globalisation a positive or negative development? のようなパターンもあります。

2 社会問題の原因とその影響について述べる

Many people now travel overseas for their holidays, rather than staying in their own countries.

What are some reasons for this change?

What problems does the rise in international tourism cause?

(今では、多くの人が休暇には自国にとどまらず海外旅行をします。この変化の理由にはどんなものがありますか。国際観光の成長はどのような問題を引き起こしますか。)

→このパターンでは、原因とその影響の両方をエッセイに含める必要があります。

3 社会問題の原因とその解決策を述べる

Tourism is becoming increasingly popular, and this can affect some beautiful natural places.

Why does this happen? What can we do to prevent further damage?

(観光の人気はますます上昇していますが、これは美しい自然の場所に影響を与えることがあります。なぜこのようなことが起こるのですか。さらなる損害を防ぐために私たちに何ができますか。)

→このパターンでは、エッセイには問題の原因とその解決策の両方を含める必要があります。What measures could be taken to solve them? のように、measures (方策、手段) が使われることもあります。

4 対立する2つの意見について論じ、自分の意見を述べる

Some people say that holding huge international events is a great advantage for a country, while others say that this is a costly mistake.

Discuss both these views and give your opinion.

(大規模な国際イベントの開催は国にとってとても有益なことだと言う人もいますが、大きな損害を出す過ちだと言う人もいます。この両方の見解について論じ、あなたの意見を述べなさい。)

→このパターンでは、対立する2つの意見についてエッセイで論じた上で、自分の意見も述べる必要があります。What is your opinion about these two views? などと聞かれる場合もあります。

5 ある主張に賛成か反対かを述べる

It is often said that exams are a poor way of evaluating students' ability, and that they cause a great deal of unnecessary stress.

To what extent do you agree or disagree with this opinion?

(試験は生徒の能力を評価する方法としては不十分で、多量の不要なストレスを引き起こすとよく言われます。あなたはどの程度この意見に賛成ですか、または反対ですか。)

→このパターンでは、どの程度賛成か反対かを述べ、その根拠や理由を示す必要があります。

② ライティングの基礎知識

英文ライティングには基本的なルールがあり、それに沿って書けているかどうか重要な評価基準になります。どれほど妥当な内容であっても、書き方がルールに沿っていないと高いスコアを取ることはできません。正しく理解しておきましょう。

1 解答の構成

1 Introduction

まず、Introductionの段落を1つ作ります。解答の導入であり、主張を述べる部分でもあります。まずは課題を一言でまとめ、次いで解答の要点を述べます。タスク1であればグラフや図表が表す内容を、タスク2であれば課題に対する自分の主張を書きます。



2 Body

次に、Introductionで述べたことを具体的に掘り下げていく部分であるBodyを複数書きます。数は決まっていますが、タスク1は2つか3つ、タスク2は3つ程度が妥当でしょう。タスク1では、グラフや図表が表す情報をいくつかのグループに分けて書いていきます。タスク2でも同様に、主張したいことをいくつかに分けて書きます。例えば、あることのメリットとデメリットを比較するのであれば、まずメリットを1段落で書き、次の段落でデメリットを、最後にどちらが上回るかを書く、といった構成が考えられます。

3 Conclusion

最後の1段落で結論を述べます。結論は必須ではなく、特にタスク1では省略されることが少なくありません。Bodyで説明した詳細を踏まえて、Introductionで述べた結論をもう一度述べますが、Introductionと同じ表現は避け、異なる語彙や表現を使って書くようにしましょう。

2 段落内の構成

段落で言いたい内容は1つに絞り、それを段落の最初の1文で述べるのが基本です。その文を「トピックセンテンス」と言います(上の図の色で示した部分)。最初の文ではない場合も、明確にわかりやすいトピックセンテンスがない場合もあります(特にタスク1)が、特にタスク2では、トピックセンテンスを意識して書くと論理の展開がわかりやすい文章を書くことができます。

最初に言いたいことを述べるので、続く文はそれをより具体的に説明する文ということにな

ります。具体例を順に挙げていったり、あるいは抽象的な文→より詳しい説明→具体例のように、具体性の度合いを1つずつ上げていったりして説明していきます。

3 よくあるミス

1つの段落で言うことは1つだけ！

各段落は、あくまで「言いたいこと(トピックセンテンス)1つとその説明」だけで終わってなければなりません。慣れないうちは、これがなかなかできません。書いているうちに話が逸れて、段落の最後にはトピックセンテンスと関係のない話になっていたり、最終的には筋が通っているものの、途中で関係のない話題が書かれていたり、ということがよくあります。これを避けるためには、事前にきちんと計画を立ててから書くことが重要です。

「論理的な流れ」ができているか確認を！

論理的な文章を書くのに慣れていない人にありがちなのは、論理を適切に展開させられないことです。英文のライティングでは、1つ1つ丁寧に論理を展開させていくことが求められます。トピックセンテンスを具体的に発展させたつもりが、よく読むと同じ内容をただ言い換えただけだったり、書き手の頭の中だけでわかる論理のつながりによって展開が飛躍していて、客観的に読むと関係のない話になっていたり、といったことがよくあります。普段から解答例をよく読んで、自分とは考え方や知識が異なる相手にも伝わる書き方を意識するようにしましょう。

避けた方がよい表現は使わない！

英語のエッセイには、通常避けられる表現があります。まず、I think ... などの表現は、使用しないのが原則です。自分の意見を表すのに使わないのは不思議に思えるかもしれませんが、自分の意見が客観的に見て妥当であることを主張するよう求められているのですから、I think ... は自分の考えでしかないことをことさらに強調することになり、適切ではありません。一人称のIを多用したり、個人的な感情を表現したりすることも不適切です。また、同様に、and so onやetc. などの表現は曖昧で妥当性を弱めるように聞こえるので、避けた方がよいでしょう。さらに、don'tやhe'sなどの短縮形はカジュアルな表現なので、do notやhe is / he hasと分けて書くようにしましょう。

③ 解答のコツ

1 計画は入念に立てる

すでに述べたことの繰り返しになりますが、出題内容を読んでいきなり書き始めてはいけません。よほど慣れているのであれば、確実に失敗するでしょう。なんとなく課題に答えた形になっていればよいのではなく、各段落で言いたいことが明確で、論理が外れずに明瞭に展開されていなければなりません。解答の要点は何なのか、その具体的な説明として、各段落に何を書き、それにどのような説明や例をつけるのか。できるだけ具体的に考えてから書き始めましょう。

2 大切なのは、書きやすく、論理的であること

受験者にありがちな失敗として、「自分の正直な意見を書きたくなくなってしまうこと」があります。しかし、正直な気持ちかどうかを試験官は気にしていませんし、それを知ることもできません。賛否両論のあるトピックに対しては、複雑な意見を持っている人も多いでしょう。しかし、それを正確に書くだけの英語力が身につけているかどうか、よく考えてみてください。試験では、自分の複雑な意見を簡素化したり、あるいはどうしても書きにくければ、自分の気持ちとまったく異なる意見を書いたりしても構わないのです。自分が英語で書きやすい意見を選びましょう。また、「面白い考え」や「人と違う考え」を書く必要もありません。

3 同じことをできるだけ別の表現で書く

英語では、同じ語や表現の反復を避けることが好まれます。すでに述べたとおり、〈語彙の豊富さと適切さ〉が評価基準に含まれていますので、同じ語を繰り返したり、goodやbadのような単純な語彙しか使わなかったりすると、どうしても高いスコアは取れなくなってしまいます。対策としては、解答例を見て自分で使えるような語彙をピックアップし、まねをして使ってみることが重要です。また、自分が書いた解答を読み返して、何度も使ってしまう語があれば、類語辞典(シソーラス)、英和辞典、単語集などを調べて、類語を確認しましょう。特によく使う語だけでも類語をリストアップして使えるようにしておくと、スコアに大きな違いが生まれます。

4 書いた分量がわかるようにする

規定の語数があるので、何語書いたかわからなければ、落ち着いて解答することができません。かといって、少し書き進めるたびに1語ずつ数えていたら、時間を浪費してしまいます。よい方法は、普段から1行10語などと決めておくことです。そうすることで、何行書けば最低限の語数を満たせるかが簡単にわかるようになります。また、実際に書く練習を何度もしていると、自分が書いたものが十分な語数に達しているかどうか、ある程度は感覚でわかるようになります。

5 まとまりで消去する場合は、消しゴムを使わない

入念な準備をして書き始めたとしても、ときには大きく書き直したくなることもあるでしょう。単語や語句でなく、文をまとまりで消したい場合は、消しゴムを使わずに取り消し線を引けば、その文は消去されたものと見なされます。また、途中で文を挿入したい場合は、解答用紙の下の方などに書いた文のまとまりをはっきりと囲って、矢印などで挿入箇所を明示すれば問題ありません。特にライティングでは時間をいかに効率よく使うかがポイントの1つなので、消しゴムで消す時間も節約したいものです。

6 ケアレスミス減らす

どれほどよい内容の解答が書けていても、ささいな文法のミスがいくつもあれば、それだけ低い点になってしまいます。試験では、できるだけ最後に何分かは残すようにして、三人称単数現在のsや冠詞の書き忘れ、主語と動詞の不一致、動詞の時制の誤りなどの単純なミスがないか、よく見直すようにしましょう。また、急いで書いたためにaとuが判別できなかったり、単純なつづりの誤りなどで読めないと判断されたりしても減点につながるので、丁寧に書きましょう。

④ 普段の学習法

1 まずは何でもよいので書く

英語で書くことに慣れている人は、どんどん問題を解いて、そこで使われている表現をできるだけ覚えて自分のものにするようにすれば、おのずと力がついていくでしょう。しかし、書こうと思っても何をどのように書けばいいかわからないという人は、まずは何でもよいので、英語で文を書くことに慣れましょう。日記をつけることでも、友人にメールを書いたりメッセージを送ったりすることでも、何でも構わないので、英語でものを書くということを始めます。

そして、徐々に使える表現を増やしましょう。本書の解答例や、付属の小冊子「WSサポートブック」にあるような定型的な表現を覚えて、使えるようにすることが重要です。使ったことのない語彙や表現も、繰り返し使って問題を解いていけば、少しずつ身につけてきます。書こうと思ってもまったく書くことができない状態で、ただ問題を読んで模範解答を見て終わり、ではいつまでたっても英文を書けるようにはなりません。

2 普段から社会的なテーマについて考える習慣をつける

タスク2では、日本語で書こうと思っても簡単ではないような時事問題や社会問題がトピックとして出題されます。プランを立てる段階にかかる時間を少しでも減らすためには、日本語でも構わないので、普段から社会的なテーマについて考えておくことが必要です。その際、自分の考えを持つことも大切ですが、自分とは反対の考えを持つ人の意見も知っておくことが重要です。IELTSでは2つの意見を比較する問題がよく出るからです。そうすることで、2つの意見を比較することが可能になり、また自分の意見にもより深みが出るようになるでしょう。

① テストの概要

1 テストの流れ

タスク	時間	内容
イントロダクション	30秒	名前、国籍、本人確認
パート1	3.5~4.5分	インタビュー 出身地、家族、仕事、趣味、子どものころの話など、受験者自身の個人的な嗜好や体験などについての簡単な会話です。関連しない2つのトピックにつきそれぞれ4つ程度の質問がされます。
パート2	3~4分	スピーチ 最初に、トピックが書かれたカードとともに紙と鉛筆が渡されます。トピックについて1分間の準備時間が与えられ、1~2分間、受験者自身の経験を基にしたスピーチをします。その後、試験官がスピーチに関連する質問を1つか2つします。
パート3	4~5分	ディスカッション パート2のスピーチに関連する、社会的なトピックについてのディスカッションです。1つのトピックに対して2つから3つのサブカテゴリーに分かれて質問されます。

- ・後述の4つの基準はいずれも0.5点刻み、9.0満点で採点され、平均が最終スコアとなります。例えば、〈話の流暢さと論理的一貫性〉が6.0、〈語彙の豊富さと適切さ〉が5.0、〈文法の幅広さと正確さ〉が5.0、〈発音〉が6.0の場合、 $(6.0 + 5.0 + 5.0 + 6.0) \div 4 = 5.5$ となります。
- ※これらの計算方法は旺文社独自の調査に基づいたものです。

2 評価基準

1 Fluency and Coherence 〈話の流暢さと論理的一貫性〉

コミュニケーションとして自然なテンポで会話ができるか、意見やアイデアを論理的に組み立てながら話すことができているかを測定します。

2 Lexical Resource 〈語彙の豊富さと適切さ〉

受験者が幅広い語彙を正確に使うことができるかを測定します。

3 Grammatical Range and Accuracy (文法の幅広さと正確さ)

受験者が幅広い文法を正確に使うことができているかを測定します。

4 Pronunciation (発音)

受験者がどの程度聞き取りやすい英語を話しているかを測定します。発音の明快さ、話のリズム、抑揚などが自然だと、よい評価につながります。

3 問題形式

どのようなことが尋ねられるのか、ここでは各パートの例を見てみましょう。

パート1

① Clothes

- *What do you like to wear when you are at home? [Why?]*
- *What do people in your country like to wear to parties? [Why?]*
- *Do you like to try different kinds of fashion? [Why/Why not?]*
- *Do people in your country usually like to wear formal or casual clothes? [Why?]*

→身の回りのことについて質問されます。yesかnoかなど質問に対する答えだけを言っても、高いスコアは取れません。理由や関係するエピソードなど、何かを加えて補足しましょう。

パート2

① Describe a decision you made that was difficult.

You should say:

what it was

when you made it

why it was difficult

and explain how it has changed your life.

→何かについて詳しく説明することを求められます。自分の経験、自分の好きなもの、自分にとって印象的だった過去の出来事などがよく質問されます。質問の内容(例では what, when, why, how)すべてに的確に答えるようにしましょう。

パート3

① Making decisions in general

- *What are some decisions that most people need to make these days?*
- *Who do people think usually gives the best advice in your culture? [Why?]*
- *What disadvantages are there when other people give you advice, when you have to make a decision?*

→パート2で尋ねられた内容に関して、より幅広い抽象的なテーマで質問されます。それに対して自分の意見を答えますが、パート1同様、ただ答えだけを述べるのではなく、理由や具体例などを論理的に説明することが求められます。

② 回答のコツ

1 発音は最低限、伝わるように

ネイティブ並みの発音でなければよいスコアを取れないのではないかと考えている人がもしいたら、それは誤解です。重要なのは言いたいことが明確に伝わるかどうかであり、多少の癖があっても問題にはなりません。しかしそれは、発音をまったく気にしなくてよいという意味ではありません。少しぐらい日本人らしい癖が残っていても問題ありませんが、例えばRとLの区別など、相手に伝えるために必要な最低限の正しい発音はできなければなりません。模範回答を聞いて、正しい発音をまねて練習しましょう。

2 伝わるスピードで話す

同様に、早口で話さなければならないのかと思っている人もいるようですが、これも誤解です。むしろゆっくりと落ち着いて話すようにしましょう。流暢に話せない人が無理に速く話そうとしたら、かえって不明瞭な発音になってしまいます。また、もし流暢に話せたとしても、過度に早口なのはよくありません。試験官が聞き取りやすいスピードとはっきりとした発音で答えましょう。考えなければ答えられないような質問をされているのですから、速く話せないのは当然のことです。もちろん、極度にゆっくりではいけません。たどたどしく、聞いている人がいらいらしてしまうようなスピードではなく、自然な会話が成り立つ程度のスピードを心がけましょう。

3 積極的に話を広げる

会話に慣れていないと、Yes. やI'm a student. のように、質問への答えだけを言って終わりにしてしまうことがあります。それでは高いスコアは望めません。そこに内容を加える習慣をつけましょう。理由を述べたり、具体的な事例や自分の経験などを説明したりして、話を広げるようにします。本書の回答例を見て、各パートの質問に対してどれくらいの発言をすることが必要かを理解したら、それを目指して発言を増やしましょう。

4 難しい内容は必要ない

非常に興味深い考えや人と違った考えを話さなければならない、と思っている受験者がもしいたら、そんなことはありません。自分の意見を明確に表現できればよいだけであり、それが素晴らしい考えである必要はまったくありません。必要なのは、論理的にわかりやすく話すことです。その中身が「よいかどうか」については、あまり気にせずに話しましょう。

5 幅広い文法や語彙を活用

ライティング同様、〈語彙の豊富さと適切さ〉が評価基準にあるので、幅広い語彙を使いこな

す必要があります。スピーキングではライティングほど難しい語彙を使えないのが当然ですが、日常的な語彙であっても、同じ語彙ばかり繰り返さないようにすることは可能です。付属の小冊子「WSサポートブック」にある表現をぜひ活用して、適切な語彙で回答できるように練習しましょう。

6 わからないとき、迷うときは、思いつく限り話す

自分が詳しくないトピックについて質問されることが、当然あります。どう答えてよいかわからなくても、「わかりません」だけで終わってしまうと、高いスコアにはつながりません。高いスコアを取れる人は、どんな質問が来ても完璧な答えができるわけではなく、答えにくいトピックに対してもなんとか答えられる人なのです。詳しくないことを伝えた上で自分の意見を述べたり、「それについてはわかりませんが、〇〇については……」と、関連する別の話題に触れたりして、とにかく何か話を続けるようにしましょう。本書の回答例にもそのようなパターンが含まれていますので、参考にしてください。

また、難しい質問をされれば、すぐに考えをまとめて話すことができないのは当然です。少し考える時間を取ることは問題ありません。Let me seeなどの表現で時間を稼ぎながら、考えを練る間、沈黙が続かないようにしましょう。「あー」、「えっと」、「なんだっけ」などのように日本語を話すのは絶対に避けるべきなので、つい口をついて出てしまう人は、そうならないよう練習しましょう。こうした表現についても、付属の小冊子「WSサポートブック」に便利な表現がまとまっていますので、活用してください。

③ 普段の学習法

1 まずはよく聞いて、よくまねる

とにかく大切なのは、本書などの問題集の模範回答を読んだ後は、音声をよく聞いて自分でも発音し、できる限りそっくりになるようまねをしてみることです。そうすることで、発音やイントネーションなどを正確に理解することができます。さらに、何度も何度も繰り返せば、頭の中に残り、自分が話すときに口から出やすくなります。スピーキングでは、いちいち日本語で考えて英語に直すということをやっているのでは時間がかかってしまい、よいスコアになりません。いかに多くの語句や表現が、自然に口をついて出てくるかが重要です。

2 ネイティブがいなくても大丈夫

身近にネイティブの人がいなければ対策ができないのではないかと心配する人がいます。実際、IELTSのスピーキングテストは面接形式であり、人とやりとりをすることになるので、先生など練習の相手をしてくれるネイティブの人がいればぜひお願いするべきですし、オンラインの英会話レッスンなども利用するとよいでしょう。

ですが、そうした機会がない人でも、できることはたくさんあります。パート2は出題されたトピックに対して制限時間内に答えを考えて話すだけですから、練習するのに相手は必要ありません。パート1と3はやりとりがありますが、質問されて答えるだけですから、質問を確実に聞き取るリスニング力さえあれば、質問に答えるという点ではパート2と変わりません。自分にできることの練習を重ねましょう。

3 難しいなら、まずはできることから

それなりに話せる人であれば、本書の問題などを見てどんどん練習を重ねればよいでしょう。しかし、話すべき内容が思いつかない、何も話せないという人は、まずできることから始めましょう。

例えばパート2で内容を思いつかない場合は、模範回答を見ながら、日本語でもよいので、言うべき内容を考えましょう。what, when, whyなどに対して簡単な答えを書き出し、大まかにプランを立てたら、模範回答を参考にしたり、本書の「WSサポートブック」などの表現を使ったりして、それを英語にしていきます。初めは1つの回答を作るのに時間がかかるでしょうが、何度か繰り返すうちに自分が使いたい表現に慣れ、かかる時間が減っていきます。

もちろん、スピーキングでは時間が限られており、そのようにじっくりと回答を考えることはできないので、いずれは即興で回答を作れるようにならなければなりません。しかし、準備段階としては、日本語も使いながら時間をかけて考えることは、非常に意味のあることです。

① 求められる語彙力

母語・外国語の別を問わず、語彙力はパッシブ・ボキャブラリー(読んで・聞いてわかる語彙)とアクティブ・ボキャブラリー(話す・書くのに使える語彙)の2種類に大別されます。従来、日本の英語教育は前者偏重の傾向がありましたが、4技能すべてが均等に評価されるIELTSの受験者は、両者をバランスよく伸ばしていく必要があります。

1 パッシブ・ボキャブラリーとは

主にリーディングで必要とされるフォーマルな語彙(例: rudimentary 初歩的な)

主にリスニングのセクション1で必要とされる日常的な語彙(例: fridge 冷蔵庫)

IELTSのリスニングとリーディングテストで必要とされるパッシブ・ボキャブラリーには、上記の2種類があります。このうちIELTS全体のスコアに影響し、重要度が高いのは、前者のフォーマルな語彙です。大まかなレベルは本書のリーディング・パッセージを1つ見るだけでもある程度わかりますが、全体像をつかむためには、『実践IELTS英単語3500』(旺文社)を見るとよいでしょう。実際に出題された語彙を言語学的データに裏付けられたレベルに分けて収録してありますので、各レベルを一瞥するだけでも現在の自分の語彙レベルを確認できるはずです。

一方、後者の日常的な語彙は、日本人英語学習者にとって盲点となっている部分です。上記の例fridgeはrefrigerator(冷蔵庫)の略語ですから、生活の中で英語を覚えた人にとっては極めて平易な単語です。しかし日本人学習者には日常生活の語彙に弱い傾向があり、知らない・書けない人が意外に多いものです。

2 アクティブ・ボキャブラリーとは

主にスピーキング・パート1で必要とされる、自分自身について語る語彙

④ My family consists of four members. うち4人家族です。

社会的事柄(文化・仕事・環境など)に関して書く・話す際に使える語彙

④ This leads to better employment prospects. これがよりよい雇用の見通しにつながる。

アクティブ・ボキャブラリーは、上記の2種類に分類することができます。このうち、前者の自分自身について語る語彙をまず固めましょう。自分自身に関することはある程度、事前に準備して練習しておくことができます。暗記したものを思い出しながらではなく、完全に自分のものとして自然な感じで話せるようにしておきましょう。スピーキングのパート1で幸先のよいスタートが切れるかどうかで、自分自身の気持ちも試験官に与える印象も大きく違ってきます。

後者の社会的事柄に関する語彙は、一朝一夕に身につけられるものではありませんが、この学習が英語力向上に最も大きく貢献すると言えます。語彙は使うことで記憶に定着しますから、リスニングとリーディングで覚えた語彙をどんどん使っていきましょう。

② 語彙を増やすコツ

1 パッシブ・ボキャブラリーを覚えるには

IELTSに限らず、試験対策としての語彙習得には、①問題中の語彙の学習、②単語集を用いた語彙の学習、の2つの方法があります。栄養摂取にたとえると、前者が食事そのもの、後者がサプリメントに相当します。栄養のある「食事」を取った上で、高濃度のサプリメントも併用すると相乗効果があるので、本書と単語集を並行して使用し学習を進めるのがお勧めです。

問題中の語彙を覚える際、重要なポイントが2つあります。第1に、同義語とセットで覚えることです。リスニングやリーディングでは、解答のカギとなる部分はほとんど常に違う語や表現に言い換えられていますから、同義語を覚えることがスコアアップに直結します。さらに、同義語とセットで覚えることで、記憶から抜け落ちにくくなり、ライティングとスピーキングで同じ単語や表現を繰り返し使うことを避けるのにも役立ちます。

第2に、パッシブ・ボキャブラリーをアクティブ・ボキャブラリーに転化することを意識することです。リスニングとリーディングテストの中の語彙や表現の中で、ライティングとスピーキングで使えそうなものがないか常に目を光らせていれば、インプットとアウトプットの間に有機的つながりができ、学習を加速させることができます。

単語、特に日常的な語彙を覚える際には、記述式問題として出題されることを想定して、正しい発音を覚え、正しく書けるようにしておかなければいけません。例えば本書の問題にも登場するcupboard(収納庫、戸棚)は、日本語では「カップボード」と言いますが、正しい発音は大きく異なります。実際の音をよく聞いておきましょう。

2 アクティブ・ボキャブラリーを覚えるには

自分自身について語る語彙については、必要な語彙のうち、英語でどう表現したらよいかわからないものは和英辞書で調べて、原稿を作り上げておきましょう。自分の書いた英語に自信がなければ、英語の先生に見てもらうのがベストなのは間違いありませんが、それができなければ、インターネットでその表現を検索してみるのが次善の策です。自分の書いたものと同じ表現が多数見つければ正しい可能性が高く、類似のもっとよい表現が見つかることもあります。

社会的事柄に関して書く・話す際に使える語彙に関しては、本書の解答例から自分が使いたい語彙や表現を拾って、ネタ帳にまとめていくのが最もよい学習方法です。その際、スピーキングで使いたいものは覚えるまで繰り返し発音し、ライティングで使いたいものは正しいつづりが書けるように繰り返し書く、という練習を必ず行いましょう。ライティングとスピーキングの評価項目の中に、語彙の豊富さが含まれていることを常に意識し、本試験で自分がその語彙や表現を使っている場面を想像するイメージトレーニングを行うとさらに効果的です。この練習が生かされたときの喜びは何にも代えがたいものになります。

③ 求められる文法知識

1 明示的知識を暗示的知識に

言語学では、文法知識を明示的知識 (explicit knowledge) と暗示的知識 (implicit knowledge) に分類します。明示的知識とは、文法規則に関して「語ることができる意識的な知識」のことです。例えば、「3単現の -s」(例: He studies ...) の説明ができるなら明示的知識がある、ということになります。一方、暗示的知識とは、「実際に言語を使用する際に用いられる無意識的な知識」のことです。この区別は IELTS 受験者には極めて重要ですので、言語学専攻以外の方もぜひ覚えておいてください。

では、IELTS はこの2種類の文法知識のうちどちらを試しているかというと、暗示的知識の方です。唯一明示的知識が役に立つのは、ライティングを見直す際に文法チェックをするときだけです(スピーキングで文法の間違いに気付いたときに即座に訂正する際にも必要ですが、これは流暢さを犠牲にすることになるので諸刃の剣となってしまいます)。

以前は、多くのテストが受験者の明示的知識を測っていました(文法知識を直接出題していた)が、現在では言語運用能力を直接測定することを意図して作られた(文法知識は言語運用能力を通して判断する)テストがあり、その代表格が IELTS です。しかし、強調しておかなければいけません。文法学習が無用ということではありません。何事においても(特に学習の初期段階において)明示的知識は必要であり、これがないと学習効率が大幅に悪化してしまいます。「理論」は重要なのですが、それだけでは不十分なので、「実践」によって明示的知識を暗示的知識に転化する努力が必要なのです。IELTS 受験者は「理論」→「実践」→「理論」→「実践」というサイクルを常に回すことで、2種類の知識を身につけていくことを意識した学習を行わなければなりません。

2 IELTS で重要な文法知識とは

では、具体的に、どのような文法項目の知識が重要なのかを考えてみましょう。文の最小構成単位は主語と動詞であり、ほぼすべての文に必要です。この2つを正しく、高いレベルで使えるかどうかは、特にライティングとスピーキングのスコアを大きく左右します。では、この2つの要素のうち、受験者による差がより大きいのはどちらでしょうか。正解は動詞です。英語の動詞は①主語との呼応(例: ○People are, × People is)、②時制、という難題を学習者に課すからです(相対的に重要度が低いものとして③態もあります)。

①主語との呼応は日本語にはありませんから、日本人は間違えがちです。ですがネイティブスピーカーには単純な間違いに見えるため、試験官に与える印象は非常に悪くなってしまいます。このような間違いが見受けられるようだと、バンドスコア 6.0 は難しいと言われていました。②時制は、受験者によって大きな差が開く部分です。高いスコアを得るためには、さまざまな時制がコンスタントに正しく使えることが必要ですが、初・中級者にはなかなかそれができません。そのためには日々の学習において、できるだけ幅広い時制を使いながら解答をするよう努力しましょう。

次に、文の最小構成単位のうちのもう1つ、主語の重要ポイントを考えてみましょう。主語

として最も一般的な品詞は名詞です。名詞は主語だけでなく目的語や補語にもなりますから、最も頻度の高い品詞であると言えます。名詞を正しく使えるかどうかはまた、スコアを大きく左右することになるのです。では、名詞を使う際に気を付けるべきことは何でしょうか。それは、①可算・不可算、②単数・複数の区別です。これらもまた日本語にはないものですので、日本人は間違えがちで、スコアを下げる要因となります。普段英語を読む際に、使われている名詞それぞれの可算・不可算を自分が理解しているかを確認し、可算の場合にはなぜ単数形または複数形が使われているのか、自分は同じように使えるのか、常に考える習慣をつけましょう。特に可算か不可算かを知らなかった単語に関しては、辞書を引いて例文まで読むべきです。

以上で文の最重要構成要素である主語と動詞についての注意事項を確認しましたので、それ以外の構成要素で重要なものを考えてみます。受験者の話す・書く英文をちょっと聞く・読むだけで、すぐにはっきりとレベルの違いがわかるのは、1文の長さです。上級者の英語の1文1文が相対的に長いのは、単にandでつないでいるからではありません。適切な接続詞や関係詞(関係代名詞と関係副詞)を使って文と文を接続することができているからであり、このことで高く評価されるのです。初級者がまず使えるようにしなければならないのが、when, while, till, until, because, though, although, ifなどの接続詞で、これらを正しく使えるかどうかで英文のレベルがまったく違ってきます。中級者は関係代名詞や関係副詞を正しく使えるようにしましょう。上級者は、特にifやas if, as thoughを用いた仮定法過去や仮定法過去完了という大技を披露することを目指しましょう。

4 文法習得のコツ

前述のように、「理論」の学習と「実践」演習の両方が必要です。前者については、IELTS受験者に最もお勧めの学習書はEnglish Grammar in Use (Cambridge University Press) シリーズです。日本の受験英語的な文法学習ではなく、自ら使うことを目的としたもので、文法書としては異例の世界的ベストセラーになっています。解説も英語ではよくわからないという方には、翻訳版があります。自分の苦手分野や強化したい文法項目がわかっている場合は、そうした課題に優先的に取り組むとよいでしょう。

「理論を学んだら、次は実践」が普通ですが、IELTS受験者にはその前にもう1段階するべきことがあります。リーディングやリスニングの教材の中に、自分が使いたい文法・表現・単語がないか常に目を光らせて、見つけ次第「ネタ帳」に書き込んでストックすることです。上記のような学習をした項目は目に留まりやすいものですし、学習したものが実際に使われているのを見ると一気に定着しやすくなります。

最後は、明示的知識を暗示的知識に転化していく段階です。そのためには実践の場が必要です。完全独学の場合は、時間制限を設けて書いたものや話して録音したものを自分で添削しなければなりません。可能なら、英語の先生に見てもらうのがよいでしょう。幸いIT革命のおかげで居住地による学習環境の差がほとんどなくなり、スカイプなどを利用してインターネット経由で指導を受けることが可能です。体験レッスンを行っているところが多くありますので、皆さん自身で自分に合ったものを見つけてください。その際最も重要な判断基準は、ただネイティブならよい、というのではなく、講師や学校がIELTSをよくわかっているかどうかですので、注意しましょう。



イギリス英語とアメリカ英語にはさまざまな違いがあります。文法、つづり、句読点、発音、語彙と表現など多岐にわたります。このうち、文法、つづり、句読点については、一定のルールを理解していればIELTSではそれほど問題になりません。発音については、アメリカ英語だけに慣れてしまっていると苦しいかもしれません。本書のようなIELTS対策書(本書ではイギリス人ナレーターを中心に音声を収録しています)や、イギリス英語を扱った書籍などをチェックして、慣れておくようにしましょう。

ここでは、特に注意しておくべき語彙と表現の違いについて説明します。これらは知らないと正解できるかどうかに関わってきますので、正確に理解できるようにしておきましょう。

1 学生生活・教育

canteen

Ⓔ 「(学校などの)食堂」の意味で、アメリカ英語ではcafeteriaをいいます(アメリカ英語でcanteenは主に「兵営などの売店兼娯楽場」を意味します)。

coursebook

Ⓔ 「(特定の教科課程で使用する)教科書」の意味で、アメリカ英語ではtextbookをいいます。なお、coursebook、textbookともに1語の複合語ですので、course book、text bookのように2語に分けて書かないように気を付けてください。

diploma

Ⓔ アメリカ英語では「(高校・大学の)卒業証書」の意味ですが、イギリス英語では「(高等教育専門機関の学位を伴わない)課程修了証明書、免許状」の意味でも用いられます。

form

Ⓔ 「(英国のpublic schoolやその他の中等学校の)学年、学級」の意味で、通例first formからsixth formまであります。なお、sixth formは大学進学に必要なA level試験の準備クラスで、通例2年間にわたります。一方、アメリカ英語では小・中・高を通してgradeをいいます。小学校から通算して数えるので、例えば日本の高校1年はtenth gradeとなります。

hall / hall of residence

Ⓔ 「寮」の意味ですので、キャンパス英語としては必須ですが、アメリカ英語のdormitory / dormしか知らない人は要注意です。なお、hallとholeの発音は異なりますので、確認しておきましょう。

module

Ⓔ モジュール(主に英国の大学の教科課程の単位。いくつかのモジュールが集まって1つの教科課程となる)。

postgraduate

Ⓔ 大学院の Ⓔ 大学院生(アメリカ英語ではgraduate。「学部の(学生)」はイギリス・アメリカ

力共通でundergraduate)。

pupil

⊗ イギリス英語では「小・中・高の生徒」の意味で用い、IELTSでもfourteen-year-old pupilsのように出題されています(一方、アメリカ英語ではpupilは主に小学生を指します)。ただし、イギリス英語でもpupilは古くなりつつあり、studentが用いられるようになってきていますので、今後はIELTSでの出題も減るかもしれません。

schoolchild / schoolchildren

⊗ 「学童」という日本語に相当し、主に小学生を指します。

sit

⊗ 「試験を受ける」の意味で、アメリカ英語のtakeに相当します。このsitには自動詞・他動詞の両方の用法があり、他動詞の場合にはsit an exam、自動詞の場合にはsit for an examのように使います。resitは「再試験を受ける」という意味になります。

tertiary education

⊗ 「高等教育」の意味のイギリス英語で、アメリカ英語のhigher educationに相当します。tertiary自体は「3番目の」という意味で、primary education→secondary education→tertiary educationという順番です。IELTSではtertiary education、higher education両方とも出題されています。

tutorial

⊗ 「(大学の)個別 [グループ] 指導時間 [授業]」の意味で、大人数のクラスを個人別または小グループに分けてtutorが指導する授業のことです。日本のゼミに似ていますが、「ゼミ」が主に3年次から始まるのに対して、tutorialは1年から行われます。

uni

⊗ 「大学」の略語で、学生同士の会話では頻繁に使われます。

2 日常生活

bookshop

⊗ アメリカ英語ではbookstoreです。bookshop, bookstoreいずれもbookを強く発音します。shopやstoreの方を強く発音しないように気を付けましょう。

cater for ...

⊗ 「(宴会・グループなど)の料理を賄う、~の要求を満たす」の意味で、アメリカ英語ではcater to ... を用います。

cinema

⊗ 「映画館」の意味で、アメリカ英語ではmovie theaterを用います。

cooker

⊗ 「料理用こんろ・レンジ」の意味で、アメリカ英語ではstoveやrangeを用います。なお、「料理人」はcookerではなく、cookやchefと言います。

cot

⊗ 「ベビーベッド」の意味で、アメリカ英語ではcribを用います。

en suite [(英)ɒn swi:t] (米)ɑ:n-]

㊦ ㊧ 〈バスルームが〉 寝室に隣接した [て] ; 〈寝室が〉 バスルーム付きの [で] (フランス語より)。

fortnight

㊦ 「2週間」の意味。極めて日常的であるにもかかわらず、アメリカ英語を習うことが多い日本人英語学習者の認識率が非常に低い要注意単語です。可算名詞なので、for a fortnight(2週間の間)のように冠詞を付けて用います。fourteen nightsに由来します。アメリカ英語ではあまり用いられず、ごく普通にtwo weeksと言います。

garage [(英)gə'reɪʒ, -rɑ:dʒ, -rɪdʒ, gə'rɑ:ʒ] (米)gə'rɑ:ʒ, -rɑ:dʒ]

㊦ イギリス英語・アメリカ英語ともに「車庫、自動車修理[整備]工場」の意味がありますが、イギリス英語では「ガソリンスタンド」(イギリスでは他にpetrol station、アメリカではgas station)の意味でも用います。発音もイギリスとアメリカでは異なり、イギリス英語では第1音節の「ガ」が強く発音されます。

general practitioner

㊦ 「(専門医に対して)一般診療医、開業医」という訳語だけでは必ずしも正しく理解できません。イギリスではNational Health Serviceという制度により、general practitioner (GP)への登録が義務づけられており、病気になるとまずこのGPの診察を受けた後で、専門医に回されます。IELTSのリスニングでもまさにこの登録に関するトピックが出題されたことがあります。

go shares

口語で「均等に負担する、割り勘にする」の意味です。口語表現ですので、リスニングで出題されています。同じ意味の他の表現としては、イギリス英語・アメリカ英語ともにsplit the bill / split the cost / go Dutchが用いられます。

the ground floor

㊦ 「1階」の意味です。2階がthe first floor、3階がthe second floorとなりますので、アメリカ英語の数え方と1階ずつずれることとなります。日常生活では大きな問題になりかねませんが、IELTSではthe ground floorが「1階」であることさえ知っていれば問題ありません。

hire

㊦ イギリス英語では「～を(料金を払って一時的に)借りる、賃借りする」という意味があり、hire a carのように用います。この意味のアメリカ英語はrentです。また、「(人)を雇う」という意味でもイギリス英語とアメリカ英語ではやや意味が異なります。イギリス英語ではhireは主に「短期的に雇い入れる」の意味で、hire a lawyer(弁護士を雇う)のように用います。

minder

㊦ 「(子どもなどの)世話をする人」の意味で、アメリカ英語ではcaregiverを用います。なお「ベビーシッター」は英米共通でbabysitterですが、イギリス英語では両親が共働きの子を自宅で預かる人をchildminderと言います。

minibus

㊦ 初見でもわかりやすいものですが、主にイギリス英語で「(近距離用で10~15人乗りの)小型バス、マイクロバス」の意味です。なお、「(長距離用)大型バス」はcoachと言います。

mobile (phone)

㊦ 「携帯電話」の意味で自分が使う場合はアメリカ英語のcellphoneでも構いませんが、イ

ギリス英語の mobile (phone) も知っておく必要があります。なお、「スマホ」は smartphone / smart phone で、smart の方を強く発音します。

motorway

㊦ 「高速道路」ですが、日本と異なり無料です。アメリカ英語では expressway、freeway を用います。highway は「主要〔幹線〕道路」の意味ですので、気を付けましょう。

newsagent / newsagent's

㊦ 「新聞〔雑誌〕販売店」ですが、日本のように鉄道駅構内限定ではありません。逆に日本のキオスクと同様、新聞や雑誌以外にお菓子やたばこなども扱っています。

overheads

㊦ 商業用語で「一般経費、間接費」の意味で、アメリカ英語との違いは -s の有無だけです。リスニングの選択肢で出題されたことがありますので、社会人以外の人も覚えておく必要があります。

pence

㊦ penny (英国の貨幣単位のペニー) の複数形で、1ペニーは1ポンドの100分の1です。リスニングで出題されると正しいスペルを書けない人が多い単語です。スペルに自信がない場合は、例えば 50 pence なら、ただ 50p のように書けばいいと覚えておきましょう。

postcode / postal code

㊦ 「郵便番号」の意味で、アメリカ英語の zip code に相当します。なお、zip code は日本と同じく数字だけですが、postcode は文字と数字の組み合わせです。

practice

㊦ 「診療所、開業場所」の意味で用いるのは主にイギリス英語です。リスニングでもリーディングでも出題されています。

primary education

㊦ 「初等教育」です (アメリカ英語では elementary education)。「中等教育」は secondary education、「高等教育」は tertiary education (イギリス英語)、higher education (アメリカ英語)。

prospectus

㊦ 「学校案内書」の意味で、アメリカ英語では catalog と言います。より一般的に用いられ、適用範囲の広い語は brochure [(英)brʊʃə, brɔʃʊə] (米)brʊʃʊər] (小冊子、パンフレット)です。

pudding

㊦ イギリス英語では「穀物と果物、牛乳などで作る温かい菓子」の意味ですが、IELTS ではデザートであることさえわかれば解答上の問題はなりません。

redundant

㊦ 「余剰人員の」の意味で、be made redundant 「解雇される」という表現で使われることが多い語です。同じことをアメリカ英語では be laid off と表現します。特に社会人の方はスピーキングで雇用関連のことを話さなければならないことがありますので、使えるようにしておきましょう。

referee

㊦ イギリス英語では「(人物などの)保証〔推薦〕人、身元照会先」の意味で用いることがあります。同じ意味の reference はイギリス英語・アメリカ英語共通に用いられます。IELTS では referee、reference どちらも出題されています。

resident

㊦ 「居住者」という意味をまず覚えなければいけません。それ以外にイギリス英語では「(ホテルなどの)滞在客」の意味があります。「滞在客でない人」はnon-residentです。

ring

㊦ 「電話をかける」という意味では主にイギリス英語です。ringとcallの言い換えで正解になる出題例があります。

socket

㊦ 「(電球の)ソケット」の意味でも、「(差し込みプラグ用の)壁ソケット」つまり「コンセント」の意味でも使われます。後者の意味のアメリカ英語はoutletで、イギリスではpower pointとも言います。なお、「コンセント」は和製英語で、consentとは言いませぬから気を付けてください。

surgery

㊦ 「(医者)の診療時間」という意味を知らないと、相当戸惑うはず。アメリカ英語のoffice hoursに相当します。例えばmorning surgery / afternoon surgeryのように使われます。その他「(外科)手術」という意味では、イギリス英語・アメリカ英語共通です。

takeaway

㊦ ㊦ 「持ち帰り用の(食事、店)」の意味で、アメリカ英語のtakeoutに相当します。

transport

㊦ 「輸送、交通機関」という意味の名詞(不可算)としても用いる点アメリカ英語との違いです。動詞としては違いはありません。public transport「公共交通機関」という組み合わせで使われることが最も多く、スピーキングとライティングでもtrainやbusなどの代わりに使えるようにしましょう。

trousers

㊦ 「ズボン」の意味で、アメリカ英語のpantsに相当します。イギリス英語でpantsは通常「(下着)のパンツ」の意味で用いられます。スピーキングとライティングで「ズボン」の意味でpantsを使っていけないことはありませんが、どちらかというtrousersの方が無難です。

vacuum flask

㊦ 「魔法瓶」の意味で、thermos flaskとも言います。アメリカ英語のvacuum bottleやthermos bottleに相当します。

windscreen

㊦ 「(車の)フロントガラス」の意味で、アメリカ英語ではwindshieldと言います。なお、「フロントガラス」は和製英語ですので、気を付けてください。

3 その他の語

amongst

㊦ amongと同じ意味ですが、主にイギリス英語で用いられ、amongよりも正式です。amongst others「数ある中で(例えば)、とりわけ」という熟語でも出題されています。

brilliant

㊦ 「素晴らしい、見事な」の意味では、アメリカ英語よりイギリス英語でよく用いられます。口語的な語ですので、リスニングで出題されることが多い単語です。

call (on 人) / (at 場所)

㊦ 「(人) ちょっと訪ねる、(場所に) 立ち寄る」の意味です。日本の英語教育でも教えられていることがありますので、ご存じの方も多かもしれません。どちらかというといギリス英語であるとされます。callは、文脈から「電話をかける」の意味か「訪ねる」の意味かを判断しなければならない場合があります。

Dame

㊦ デイム、つまりナイト(knight)と同等の位を持つ女性の称号で、男子のSirに相当します。

gone

㊦ 「(年齢・時刻などについて) ~を過ぎた(past)、~を越した」の意味で、an old man gone eighty 「80過ぎの老人」のように使います。イギリス英語特有の用法で、リスニングで出題されています。頻度の高いものとは言えませんが、知っていれば遭遇した際に戸惑わずに済みます。

keen

㊦ keen to doで「~することを熱望して」、keen on ... で「~が大好きな、~に夢中な」という意味では主にイギリス英語です。アメリカ英語では「(知力・才気・感覚などが)鋭敏な、明敏な」の意味が最も一般的です。

nought

㊦ 「ゼロ」の意味で、例えば0.1をイギリス英語ではnought point oneと読みます。一方、アメリカ英語では単にpoint oneまたはzero point oneと読みます。知らないといリスニングで出題されたときに戸惑いますので、必ず覚えておきましょう。

put 人 on to ...

㊦ 「人の電話を~につなぐ」の意味で、アメリカ英語ではput 人 through to ... を用います。どちらでもわかるように、そしてどちらか一方を使えるようにしておきましょう。

round

㊦ ㊦ アメリカ英語では主にaroundを用います。イギリス英語ではroundを運動を表すのに用い、aroundを静止の状態を表すのに用いる人もいますが、最近ではこの区別はなくなりつつあると言われます。IELTSではround = aroundと覚えておけば十分です。

Sir

㊦ サー…、…卿。英国でナイト爵・准男爵に対する尊称で、男性の名または姓名の前に付けます。

sort (out)

㊦ 「(問題など)を解決[処理]する」の意味では主にイギリス英語です。リスニングで繰り返し出題されています。一方、「~を分類する」の意味ではイギリス英語・アメリカ英語の区別なく使われます。

take it in turns to do

「交代で~する」の意味で、アメリカ英語のtake turns to doに相当します。take turns to doはイギリス英語でも用いられます。

whilst

㊦ whileと同じ意味で正式な単語ですので、リーディングで出題されています。